

(様式1)

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第二寺島小学校
校長名	中村 奈緒美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全学年、国語と算数の平均正答率が目標値を上回った。・昨年度、5・6年生の社会で思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度が目標値を下回っていたが、今年度は全観点で目標値を上回ることができた。・国語の書くことで全学年目標値を大きく上回った。経年比較でも3年生は+7.2、4年生は+2.3となり、取組の成果がみられた。	<ul style="list-style-type: none">・昨年度の目標であった全教科・全学年で目標値、全国平均正答率を上回ることができなかった。・昨年度大きな課題であった理科が今年度も伸びが見られなかった。特に主体的に学習に取り組む態度が全学年で目標値を下回り、課題が残った。・4・5・6年の理科において物質・エネルギーの問題で大きなつまずきがみられた。・3・4年のD・E層児童の割合が区平均よりも多い。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学習意欲が全国値より4年は+1.2%、5年は+1.3%、6年は+2.0%と、昨年度と比較して、上昇した。	<ul style="list-style-type: none">・1週間に学校以外で本を読む冊数について、全く読まない児童は2年生 22.1%、3年生 21.3%、4年生 24.0%、1か月に本を読む冊数について全く読まないが5年生 21.2%、6年生 28.9%と大変高い。読む機会が朝読書や読書の授業のみで、読書習慣が身につけていない児童が各学年5人に1人いる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・朝学習や朝読書、週末作文、放課後補習教室「二寺子屋」を継続的に取り組んでいる成果が国語、算数において結果となって表れている。・ロイロノートやミライシードなどタブレット端末を授業中や家庭学習で効果的に活用することができた。	<ul style="list-style-type: none">・放課後補習教室「二寺子屋」では算数を中心に補習しているが、課題のある教科である理科もD層、E層の児童を中心に補習していく必要がある。・学習振り返り期間を年3回実施してきたが、学習内容が定着していない児童に対する指導の時間を十分に確保することができなかった。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 授業内での取組

①問題解決型授業による思考力・判断力・表現力の育成

- ・全教員が学習過程「つかむ」「見通す」「自力解決」「学び合う」「振り返る」を基本とした授業を心がけ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自分なりの解決方法を考え、それを表現する力を育成していけるようにする。

②教科等横断的な視点で学んだことを活用する場面の設定

- ・教科等で児童が身につけた資質・能力をさまざまな学習で活用できるように、教師は意図的、計画的に授業を組み立てていく。

(2) 授業以外での取組

①放課後補習「二寺子屋」の計画的な実施

- ・毎週火曜日の放課後補習は算数と理科を中心にD・E層児童に対する補習を実施する。
- ・学習内容は学力向上委員会を中心に学年で話し合って決定する。
- ・補習教材は振り返りシートや評価テスト、学力状況調査の類似問題などを使用する。

②これまでの学力向上の取組の継続

- ・週4日の朝学習の継続(火・金曜日：読書 水曜日：漢字小テスト 木曜日：計算・文章問題)
- ・読書記録カードや読書週間を活用した読書習慣の定着
- ・家庭学習習慣の確立(学年で内容を確認し、学年×10分+10分で毎日計画的に学習する)

③自然への興味関心を育み、日々の変化や気付きを表現する機会の設定

- ・1階職員室前にこれまでの生き物に関する学習の写真や取組内容を掲示する。
- ・カブトムシの幼虫や魚の飼育、微生物や葉の気孔の観察ができる顕微鏡の設置など、生き物への興味関心を高める環境を整える。

(3) 定期的な学習の振り返りを実施

- ・年3回(4月中旬、12月中旬、2月中旬)の振り返り期間以外にも授業や補習教室、家庭学習の中でも繰り返し復習していく。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・4・5・6年の理科と社会において、理科は校内平均正答率が目標値を上回るようにし、社会は目標値だけでなく全国平均正答率も上回るようにする。
- ・国語と算数で2年生は校内平均正答率を目標値+12%以上、3年生は目標値+10%以上、4年生は目標値+7%以上、5・6年は目標値+5%以上を目標とする。
- ・D・E層児童の割合が区平均を下回るようにする。